

平成18年度とりまとめの概要

今回の検討事項

検討項目	平成18年度に検討した事項	今年度の検討事項
(1) 総合点数のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 平成19・20年度の資格審査における技術評価点数の算定方法について、総合評価方式の拡大を踏まえて技術提案(VE提案)の評価結果を活用するとともに、低入札工事における品質低下に対するペナルティを反映 	<ul style="list-style-type: none"> 競争参加資格について、現行制度の抜本的な見直しも含め、新たな視点で評価手法を検討 平成21・22年度の資格審査における経営事項評価点数と技術評価点数の比率の変更や2軸による評価について検討 あわせて技術評価点数の算定方法を工事成績がより反映されるように見直すとともに、技術力や企業信頼度を評価するため、新たな評価指標を加えることを検討
(2) 発注形態に応じた等級区分のあり方	—————	<ul style="list-style-type: none"> 中建審WGの議論を踏まえつつ、直轄における発注形態に応じた等級区分のあり方について検討
(3) 技術力を重視した競争参加資格のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 同一等級内において「技術評価点数〇点以上」、「工事成績評定企業ランキング〇位以上」等を要件とする工事の試行を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 工事分野(例えばトンネル、ダム等)ごとの技術評価点数や工事成績評定企業ランキング等に基づき企業の格付を行い、工事ごとの競争参加資格として例えば「トンネル工事分野における格付☆☆以上」等を要件とすることを検討
(4) 総合評価における評価項目及び配点のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 「総合評価委員会」において検討 	
(5) 調達各段階で選定すべき評価指標のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 評価指標を整理 	<ul style="list-style-type: none"> 各段階において審査・評価すべき指標及びそれらの重み付けについて検討
(6) 入札ボンド制度の活用のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 東北及び近畿地方整備局において7億2千万円以上の工事に入札ボンド制度を試行 	<ul style="list-style-type: none"> 全地方整備局において7億2千万円以上の工事に導入 他の発注機関の動向の把握を含め、引き続きフォローアップ調査を実施
(7) 工事成績の活用のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 「品質確保専門部会」において検討 	